

希望を与える神

【聖書箇所】 15 章 13 節

はじめに

●ローマ人への手紙 15 章には、三つの「神」ということばが出てくることを前回お話ししました。第一は 5 節の「忍耐と励まし神」、第二は 13 節の「望みの神」、第三は 33 節の「平和の神」です。いずれもパウロは、ローマの教会の主にある人々のために祈る祈りの言葉の中で使っています。パウロは祈りの形式で「・・・の神が、あなたがたを・・・してくださいますように」と述べていますが、単に「こうであったらいいなあ」という希望的観測ではなく、パウロ自身が信じてきた神はまさにそのような方であるという確信に基づいて語っているのです。

●今回は前回に引き続いて、13 節にある「望みの神」について取り上げます。

【新改訳改訂第 3 版】ローマ人への手紙 15 章 13 節

どうか、望みの神が、あなたがたを信仰によるすべての喜びと平和をもって満たし、聖霊の力によって望みにあふれさせてくださいますように。

【新共同訳】

希望の源である神が、信仰によって得られるあらゆる喜びと平和とであなたがたを満たし、聖霊の力によって希望に満ちあふれさせてくださるよう。

●私たちの神は、私たちに「望みに満ちあふれる者」となることを望んでおられます。あなたは主に希望に満ちあふれているでしょうか。神からの望みをもって生きているでしょうか。もしそうであるなら、そのような人は非常にパワフルな生き方をしているはずですが。もし喜びのないキリスト者がいるとしたら、その人は失望という病の中にいるかもしれません。牧師もしばしばこの病に罹ります。この病にひとたび罹ると、すべてのことに力が入りません。前進する意欲も力もそがれてしまうのです。牧師は霊的な戦いの最前線を進んでいるため、敵の攻撃の火矢を受けて傷を受けることも多いのです。そのために希望を失う状況に陥るのです。私も開拓を始めてから何度こうした経験をしたか分かりません。だからこそ、今回のみことばにあるように、「聖霊による望みにあふれさせて」いただく必要があるのです。私たちは、だれでも、望みによって生き、望みによって生きる力を与えられ、望みによって働いたり、努力したりするものです。私たちは望みなしに生きることができない存在です。逆に、望みさえあるなら、たとえどんなに辛くとも、困難であってもやり抜くことができるのです。ただ問題なのは、私たちに生きる力を与える望みというものがどういう種類のものであるかということです。

1. 三つの「望み」のタイプ

(1) 幸運待望型

●努力せずに、思いがけない幸運が来ないかと期待して待っている望みがあります。「きっとすばらしいことがそのうちにあるさ」「素敵な出会いがあるさ」と望んでいる「幸運待望型」タイプです。

●「待ちぼうけ」という歌があります。私も小学生の頃、音楽の時間に先生から教えられて、意味も分からずに歌っていたことを思い出します。「ある日せっせと野良稼ぎ、そこへうさぎが跳んで出て、ころりころげた木の根っ子」という歌詞ですが、ある日、せっせと野良仕事をしていたら、うさぎがそこへスッ飛んで来て、木の切り株に頭をぶつけて死んでしまった。それを見ていた農夫が、何もあくせくと働かたあない。偶然に訪れる幸運を期待して待っていればいいんだと、仕事をしないで待っているという歌です。宝くじに当たるのを期待しているタイプです。あるいは、ギャンブル(競輪競馬)による一獲千金を望んでいるタイプです。しかしそのような望みは、大方損をされると言われています。当てにならない望み、破滅をもたらしかねない望み、男のロマンだと人は言っても、そんな望みにどうしていのちをかけようとするのでしょうか。

(2) 現実目標達成型

●これは前者に比べると、より現実的な望みです。ひとつの目標を設定してそれに向かってひたすら努力することで、望んでいることを達成しようとするタイプです。努力せずに、幸運を期待することに比べれば健全だと言えますが、問題はその目指すところが、人生の究極的な目標ではなく、当面の目標でしかないということです。いわば近視眼的待望型と言えます。

●先日久しぶりに、娘の同級生で、教会にも出入りしていたY君からの電話を受けました。一浪して入った東京の私立大学、安い、古い、狭い部屋を借り、北海道にはない蒸し暑さの中で、なにも苦労して来るようなところではなかった、との後悔の電話でした。

●最近、結婚してもすぐに離婚してしまうカップルが増えているようです。この人と結婚できたら最高と思って結婚したはずですが、しばらくすると、理想の相手が現実の相手となってしまう、失望して、離婚するという結果に。かなり以前の新聞に49歳になる主婦の投稿が掲載されていました。その投稿には「結婚契約法はいかが」という見出しがっていました。「結婚契約法」とは、子どもが一人前になり、自立したら必ずその夫婦は結婚を解消しなければならないという法律を作ってはいかがでしょうかという提案でした。望むなら再び結婚してもいいし、望まなければ他の人と結婚できる制度を法律で定めたらというものでした。この提案の意図がどこにあるかといえば、もし自分の愛する人であれば、他人に取られないように、相手を思いやりながら、愛情の表現を豊かにして暮らすはず。諸悪の根源は、死別、あるいは離婚しない限り、50年も同じ人と一緒にいることが当然になっていることだということです。50年も一緒にいれば、飽きない方がおかしい。早くそんな法律ができないものなのでしょうかという投稿でした。

●投稿した女性は、かなり結婚に失望しています。もしそんな法律ができたとしたら、やがて新しい旦那を物色すべく自分をみがくことだってできる。希望を持って耐えることができると言わんばかりです。このアイデアのよし悪しは別として、希望なしには生きられないという人間の現実の訴えを浮き彫りにしてはいないでしょうか。このように私たちが抱く望みは、しばしば私たち自身を欺き、失望をもたらすのです。人生の経験を経れば経るほど、希望は失望に終わることを直感的に悟るようになるのでしょうか。

(3) 靈的指向型

●これは、肉の目には見えないものに目を留める「現実超越型」タイプの望みと言えます。聖書は決して失望に終わることのない望みがあることを私たちに教えています。決して失望させられることのない望み、むしろ、望みにあふれさせてくださる神がおられることを教えています。

2. 私たちの望みなるキリスト

●ローマ人への手紙 9 章 33 節にはこのように記されています。

【新改訳改訂第3版】ローマ書 9 章 33 節

それは、こう書かれているとおりです。「見よ。わたしは、シオンに、つまずきの石、妨げの岩を置く。
彼に信頼する者は、失望させられることがない。」

●これはイザヤ書 28 章からの引用句です。当時のユダの民たちはバビロンの勢力による困窮に遭遇していました。すでに北イスラエルはアッシリア帝国という国に滅ぼされてしまっていました。南ユダも神よりもエジプトの助けを求めようとしていました。そんな状況の中で、神は神の民が「絶対にゆるがされず、辱しめられず、あわてふためくこともなく、失望に終わることのない、信頼するなら絶対に大丈夫だ」とする一つの石(岩)を備えているというメッセージを、預言者イザヤを通して伝えました。その「ひとつ石(岩)」とはメシア・イエシュアのことです。

【新改訳改訂第3版】イザヤ書 28 章 16 節

だから、神である主は、こう仰せられる。「見よ。わたしはシオンに一つの石を礎として据える。
これは、試みを経た石、堅く据えられた礎の、尊いかしら石。これを信じる者は、あわてることがない。」

●神が備えてくださった「救いの石」、その石は「試みを経た石」です。「試み」とは試練とか困難とかを表わすことばです。石は、灼熱の太陽にさらされ、あるいは冷たい雨にたたかれ、あるいは風に吹かれて風化していきます。それに持ちこたえられない石はそこで崩れ去ります。しかと、神が神の民のために備えられた石は、風化することなく、どんな熱にも雨にも耐え、厳然として多くの者の土台となるために試練に耐え抜いたものです。そのようにテストされた石こそ、あなたがたの土台となるのだと約束されたの

です。

●神が備えて下さった救いの石をユダヤ人たちは見捨ててしまいました。ところがその結果はどうだったでしょうか。A.D70年、ユダヤの国はローマ帝国によって滅ぼされ、彼らの信仰の拠り所であった神殿は完全に破壊されてしまいました。そのために、ユダヤ人たちは世界各地へと離散する運命となったのです。神によって「試みを経た石」として備えられた石は、ユダヤ人にとっては、「つまずきの石」「妨げの石」となってしまったのです。

●イザヤ書で「試みを経た堅く尊い石」というところを、パウロは「つまずきの石」「妨げの岩」と置き換えましたが、それは七十人訳によるものです。ダイヤモンドの価値は、大人にはその価値が分かりますが、幼児にとってはどんなに価値があるか分かりません。むしろ色のついたガラスの方がきれいだと思うでしょう。そのように神が神の民のために備えられた救いの石が、ユダヤ人たちにとって「つまずきの石」「妨げの岩」となったのです。しかしたとえどんなにその石につまずこうと、その石であるメシア・イエシュアに拠り頼む者は失望に終わることがないのです。

●またパウロはコロサイ人への手紙でこう記しています。

【新改訳改訂第3版】コロサイ書 1章 27節

神は聖徒たちに、この奥義が異邦人の間にあってどのように栄光に富んだものであるかを、知らせたいと思われたのです。この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。

●聖霊はこの「栄光の望み」に私たちをあふれさせてくださる助け主なのです。それゆえ、私たちも次のように告白しましょう。「主よ。わが望みはあなたにあります。」と。

1995.7.23